左は社長の大久晃功氏

第25回 清月記SPECIAL対談

大久裕子さんが語る「女性の生き方」

「クオリティの高い、心豊かな旅行」を催行する㈱国際ツーリスト仙台の取締役として、社長をサポートする大久裕子さん。「職人技」とも言われる旅行企画の秘訣などをお聞きしました。

「明るくポジティブに暮らすこと」

菅原　裕典
すがわら・ひろのり
1960年宮城県塩釜市生まれ。83年東北学院大学経済学部経済学科卒業。83年名古屋・中京葬儀社入社。85年3月、父・清一とともにすがわら葬儀社設立。89年仙台メモリアルサービス設立、社長就任。2000年エポックせんだい設立、社長就任。01年社会福祉法人無量壽会理事長就任。01年せんだい泉エフエム放送取締役。01年㈱清月記社長就任。10年宮城学院中学校・高等学校父母教師会会長就任。

「お客さまと旅の価値観を共有する職人です」

菅原　御社が主催する旅行に度々、参加させていただいておりますが、とてもクオリティが高く、一緒に行った方もとても満足されて帰ってきます。どのようなポリシーを持って企画するのですか。

大久　お客さまが幸福感を得られる旅を提供することです。社長が企画するのですが心豊かになる旅行にお客さまをお連れして、喜んでいただくこと、その旅を創り上げることが自分の天職だと申しております。お客さまと旅の価値観が合い、喜んでいただいたときは、何よりも嬉しいと常々申しております。商売人ではなく旅を創る職人なのでしょうね。

菅原　私自身もサービス業の職人だと思っていますが、お客さまに喜んでもらうために、どのように商品をつくっていくか、いつも考えています。取締役として大久さんは、社長が手がける旅行企画をいつも支えておられますね。

大久　私も含め会社のスタッフ全員が、社長を信頼して、動きやすいように全力でサポートしています。社長から旅行先のポイントポイントで連絡がありますが、私はお客さまはお元気で楽しんでいますかと、まず聞きます。皆さんお元気で順調にいっていますと聞くと、本当にホッとします。

菅原　通常日本にいて生活していても、様々なトラブルに見舞われます。まして環境が大きく変わる海外の旅先ではアクシデントはつきものです。お客さまも精神的な負担もある中で、うまくコーディネートされていますね。

大久　例えば、環境が変わると食欲も変わってきます。体調を万全にして旅を続けていただけるように、昼は軽めに夜は豪華にという風にそのときの状況によってアレンジするように心掛けています。それにしても、世界の素晴らしい景色や建築物の力はすごいなと思います。旅行後もご夫婦共通の話題も増え、また二人で行きたいとおっしゃっていただいたときは嬉しいですね。

櫻岡大神宮での七五三のお参り

菅原　さまざまな面で行き届いた旅行を楽しむことで、夫婦の心地よい距離感を再確認でき、その後の生活の仕方も変わりますね。家族旅行でも、より絆を深めることができます。一緒に行ったお子さまは、御社の企画する旅行を体験した後は、また行くには一生懸命働かなければ、という気持ちになるのではないかと思います。

私は、一人でも多くの方に楽しみを実感して、幸せになってほしい、そして元気に生活してほしいと思っています。人間の一生は、宇宙規模で考えると、ほんの一瞬です。限られた時間の中で、どう人生を楽しむかがとても大事です。それを実感するには、旅行をすることがとても有効だと思います。

清月記本社で

大久　そう言っていただけると、とてもうれしいです。私も体だけは丈夫です。ただ飲み過ぎに注意しろとは、よく言われますが（笑）。

菅原　企画する場合のポイントは。

大久　もちろん社長自ら歩いていますが、常に最新の旬な情報を仕入れるために、現地のガイドさんと情報交換をしています。ネット情報だけでは本当のことはよくわかりません。満足度の高い旅行を催行するためには、現地の空気や匂いを感じながら商品づくりをします。それが職人技なのです。社長は旅好き、人好きが高じて今の仕事をしておりまして、旅行会社で修行してきたわけではないので、企画するときの切り口が違うように思います。

菅原　社長が無事に帰ってくるまで心配でしょうね。

大久　はい。特に今は、世界の情勢がややこしくなってきていますので、心配です。

菅原　これまでの旅行企画の中で、大きなアクシデントはありましたか。

大久　国際ロータリーのスペインバルセロナ大会でヨーロッパへお連れしたとき、現地の空港管制官のストライキに遭いました。急に陸路で移動になり、その鉄道手配など大変でした。大会に間に合わなければ、旅の目的はまったく意味のないことになります。空港の事務員と英語で本気でケンカをしたそうです。

菅原　大久さんは、仙台生まれ、仙台育ちのまさに仙台っ子ですね。

大久　はい。父伊澤孝と母睦子の娘として生まれました。父は七十七銀行に勤務しておりました。

大久　裕子 さん
おおひさ・ゆうこ

1956年(昭和31年)、仙台市青葉区北七番丁生まれ。
●宮城県第一女子高等学校から東北学院大学英文科卒業。金融関係に勤務後、大久晃功氏(てるよし・食肉卸業の大久商店に勤務)と結婚。一男一女に恵まれる。晃功氏の父大久信有氏の従兄弟は戦後、だい久製麺を創業。
●82年、晃功氏が㈱国際ツーリスト仙台を設立したのに伴い、取締役に就任、経理部門を担当する。
●仙台市を中心としたクラシック系の総合音楽サイト「仙台・杜の響コンサート」活動を続ける。仙台商工会議所女性会会員。

出会いは東北学院大学のESSサークル活動で

菅原　ご主人との出会いは。

大久　東北学院大学サークル活動クラブのESSで知り合いました。主人は、英語が好きで、大学入学してすぐに休学して、アメリカリバーサイドの大学に1年留学しました。今は、リバーサイド市の名誉市民でもあります。語学力を生かした職業に就きたいと、家業の後、独立しました。私は専業主婦になる予定で、旅行業の知識もなく足手まといになるとあまり乗り気でなかったのですが、今はとてもやりがいがあります。会社では、「空っぽの金庫番」を担当しています（笑）。

ご主人でもある大久晃功社長の還暦祝いで家族そろっての京都旅行

菅原　最後に、女性が幸せに生きていくためのメッセージをお願いします。

大久　とにかく楽しいことが大好きです。いつも笑顔でいたいですね。明るくポジティブに暮らしていれば、自ずと道は開けると思います。

菅原　ありがとうございました。今後も素晴らしい旅の企画を期待しています。